

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10

| | |
|--------|-------|
| 国立公文書館 | |
| 分類 | ③ 赤 |
| 配架番号 | 3 A |
| | 14 |
| | 42-11 |

RESTRICTED

WDC No _____ Team _____ Scanner _____ Index No _____

388859 127

Typewritten mimeographed loose-bound book with photographic illustrations; "Manual on Captured 3.7 inch Antiaircraft Gun," 1st Army Technical Research Laboratory, 1943.

RESTRICTED

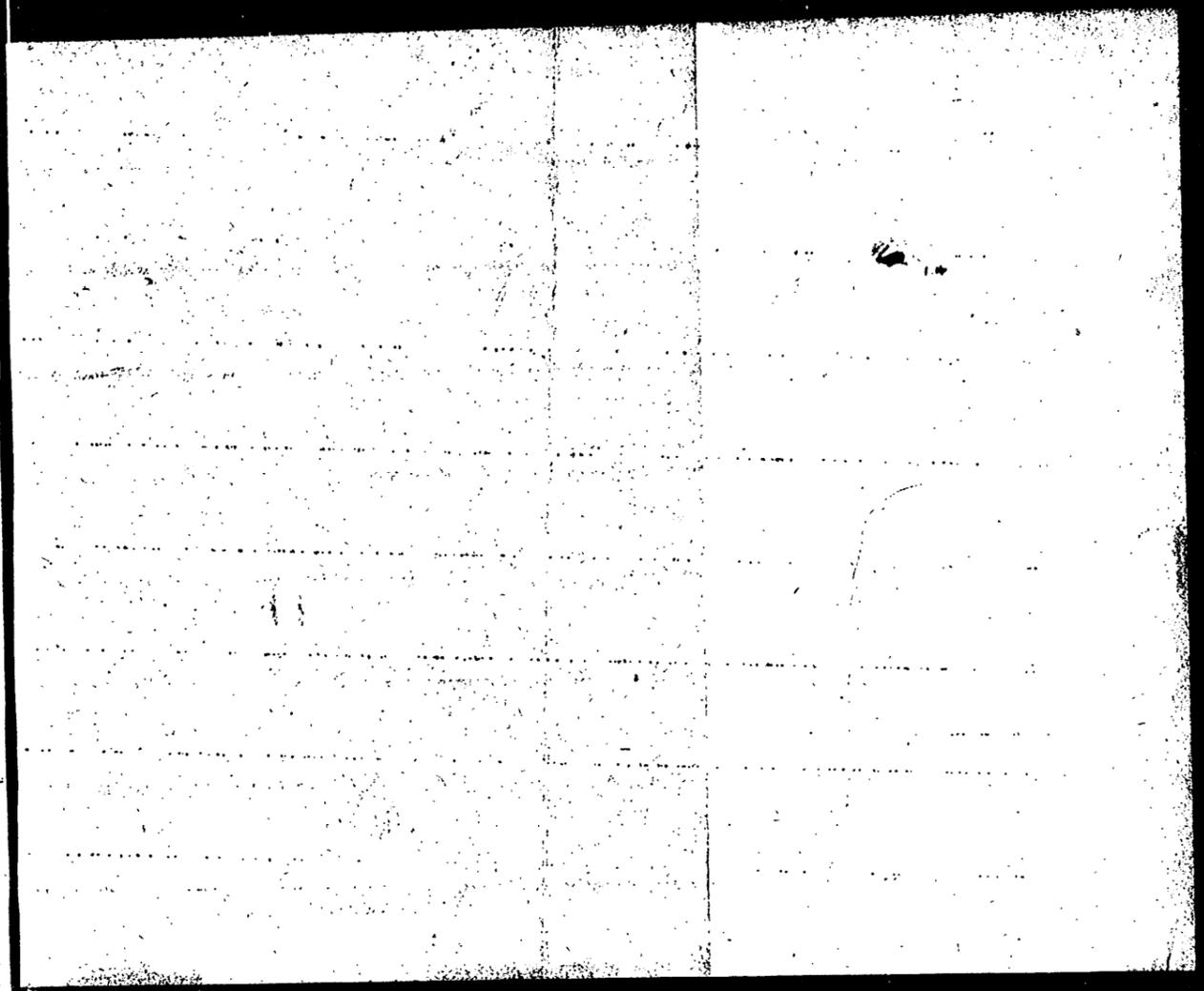
め
く
れ
ず

300
470
4057
SHIPPING ADVICE # 10112
SACK # 5
ITEM # 129

押
收
三
・
七
時
萬
射
砲
説
明
書

| | |
|--------|-------|
| 国立公文書館 | |
| 分類 | |
| 配架番号 | 42-11 |

昭和十七年十二月
第...技術研究所



押収三・七吋高射砲説明書目録

| | |
|-------------------|-----|
| 第一編 總 說 | 一頁 |
| 第二編 各部ノ構造及機能ノ大要 | 二頁 |
| 第一章 砲 身 | 二頁 |
| 第二章 閉 鎖 機 | 二頁 |
| 第一節 開閉裝置 | 二頁 |
| 第二節 發射裝置 | 三頁 |
| 第三節 安全裝置 | 三頁 |
| 第四節 液筒裝置 | 四頁 |
| 第三章 搖架(發射架共) | 六頁 |
| 第四章 座 退 機 | 八頁 |
| 第五章 復 坐 機 | 九頁 |
| 第六章 砲架(平復機共) | 一〇頁 |
| 第七章 高世照準機(高角受信機共) | 一一頁 |

| | | |
|------|----------------|----|
| 第八章 | 方向照準機 (方向受信器共) | 一一 |
| 第九章 | 信管測合機 | 一一 |
| 第十章 | 區 | 一一 |
| 第十一章 | 進行装置 | 一四 |
| 第十三編 | 取 | 一五 |
| 第一章 | 分派綜合 | 一五 |
| 第一節 | 通 | 一五 |
| 第二節 | 砲 | 一五 |
| 第三節 | 閉鎖機 | 一六 |
| 第二章 | 放列布置及撤去 | 一九 |
| 第三章 | 射擊上ノ注意 | 二二 |
| 附 表 | 主要諸元表 | |
| 附圖第一 | 進行姿勢 | |
| 第二 | 進行姿勢 | |
| 第三 | 放列姿勢 (右側面) | |

| | | |
|-----|----------------|--|
| 第四 | 放列姿勢 (前視) | |
| 第五 | 放列姿勢 (前視) | |
| 第六 | 前 車 | |
| 第七 | 閉鎖機及能說明圖 | |
| 第八 | 閉鎖機組立 (右側面) | |
| 第九 | 閉鎖機部品 (緩衝板) | |
| 第十 | 同 (開閉槓桿、主軸) | |
| 第十一 | 同 (鎖栓、開閉板、抽筒子) | |
| 第十二 | 同 (抽筒子) | |
| 第十三 | 同 (鎖 栓) | |
| 第十四 | 同 (擊發機組立) | |
| 第十五 | 同 (擊發機分解) | |
| 第十六 | 磁退線断面圖 | |
| 第十七 | 復坐機緊締油壓調整裝置 | |
| 第十八 | 高低受信器 (高低角自盛) | |

- 附圖第十九 方向受信器 (方向目盛)
- 第二十 信管測合機
- 第二十一 信管測合機目盛
- 第二十二 彈丸接装要領
- 第二十三 砲架 (方向座後、水準器)
- 第二十四 砲架 (水平校正要領)

押収三・七吋高射砲説明書

第一編 總説

- 第一 本砲ハ押収三・七吋高射砲ニシテ移動式ト固定式トアリ
- 第二 移動式ハ四輪ノ空氣入「クイヤ」ニテ進行シ射撃時ハ車輪ヲ除キ砲ヲ緩降セシメ四本ノ脚ヲ倒シ枕ヲ打テ込ミ砲ノ安定ヲ保ツ
- 第三 固定式ノ物ハ「ベトン」砲床上ニテ射撃スルモノニシテ移動式ノ砲架ナラシムル爲運搬難シク附シ得ル如キ構造ヲ有ス
- 砲架ハ高キ二條板ヨリ成リ平衡機ヲ除キテ射撃ヲ附シ得ル式復坐機ヲ使用シ巨砲ハ圓形ニシテ水平矯正装置ナシ從ツテ外見上ハ相當移動式ト異リ層レトモ取扱上ハ異ル點少シ
- 以下主トシテ移動式ニ關シテ説明ス
- 第四 本砲ハ砲身、閉鎖機、着架、座環、復坐機、砲架、高坐車輪 (高坐受信器共)、方向照準機 (方向受信器共)、信管測合機、信管測合機目盛、後車輪ヨリ成リ所裝ノ屬品ヲ附ス

僅カニ開鎖セシムル流カヲ存ス

抜筒子ハ鎖部ノ後部ニ當リテ左旋回シテ藥莖ヲ應出シ閉鎖止ハばぬ
ノ力ニヨリテ後方ニ旋回シ鎖部ヲ開放位置ニ保ツ

第九 彈丸ヲ發射スルカ又ハ閉鎖止ヲ前方ニ押セハ發射機ノ作用ニ
ヨリ流二發閉鎖シ砲尾停下面ヨリ突出セル磁栓ニヨリ止ル

第十 自動閉鎖

自動閉鎖ヲ行ハシムルニハ準板横桿ヲ前方 SAノ位置ニシ且彈丸ヲ發
射シタル後横桿止止部ヲ三方 SAノ位置ニナスモノトス

第十一 然ルトキハ發射時砲身後部ニ際シテハ主軸とらハ開放準板ヲ
壓シツツ通過スルモ復座ニ際シテハ開放準板ノ表面ニ沿ヒテ旋回セ

シメラシテ主軸ト同シ閉鎖機ヲ開クモノトス

第十二 此ノ際横桿止止部ノ作用ニヨリ凸筒ハ閉鎖横桿ノ孔部ニ突
入シ降下セサル如クナシアリ又閉鎖横桿ト主軸トハ内部ニ於テ過滑

シアラサル爲閉鎖横桿ハ其ノ儘ニテ主軸ノミ旋回シ發射ヲ開クモノ
トス

第十三 自動閉鎖ヲ止メルニハ準板横桿ヲ後方 HANDノ位置ニ廻シ横桿駐
止轉把ヲ手動(下方)ニ位置セシメ手動横桿ヲシツカリ支ヘツツ押

栓ヲ押シ横桿ヲ開ク然ルトキハ開放準板ハ移動シテ主軸とらト接觸
ヲ斷ツヲ以テ開機セス

第二節 發射裝置

第十四 發射ヲ行フニハ安全栓ヲ「FIRE(發火)」(上方)ノ位置ニナ
シ引鐵ヲ後方ニ引クヘシ

然ルトキハ傳導裝置ヲ經テ閉鎖機室内ニアル扛桿ヲ押シ上ク扛桿ハ
鎖栓内ニアル逆鉤脱子ヲ扛上ス次テ逆鉤脱子ハ逆鉤先端ヲ押上ク從
ツテ逆鉤後端ハ擊莖トノ接觸ヲ斷ツヲ以テ擊莖ハ同ばねノ彈撥力ニ
依リテ前進シ發火セシムルモノトス

第十五 不發ノ場合ハ鉤桿ヲ前方ニ引クヘシ然ルトキハ鉤桿先端ハ擊
莖ヲ後退シ逆鉤ニ鉤セシメ再ヒ發火前ノ位置ニ蓄ス

第三節 安全裝置

第十六 安全栓ヲ安全ノ位置(下方)ニセハ安全栓ノ握把部根元ノ膨

大砲ニヨリ鉤桿ハ前方ニ押サルルヲ以テ擊莖ヲ後退セシムル作用ヲ
ナス其ノ左端ハ後方ニ移動シ擊莖シタル場合擊莖ヲ中途ニテ止ム
即チ引鐵ヲ引クコトハ可能ニシテ擊莖ハ前進スルモ鎖栓前面ヨリ突
出セス從ツテ發火セス

第十七 不時ノ危害ヲ豫防スル装置

1 不完全閉鎖ニ於テハ扛桿ハ鎖栓ノ逆鉤脫子ニ正對セス從ツテ引鐵
ハ引ケス

2 引鐵牽引中ハ扛桿ハ鎖栓下面ノ逆鉤脫子ノ孔中ニ突入シアリテ鎖
栓ノ開放ヲ妨ク

3 閉鎖途中ニ於テ擊莖前進スルモ擊莖脫子乙ハ閉鎖機室準帶ニ沿ヒ
回轉シアレハ鉤桿左端ハ正規ノ位置ヨリ後退シアリ擊莖ハ途中ニ
テ止メラレ擊發セス

4 閉鎖機開放シアラサレハ裝填架ヲ裝填位置ニナシ得ス
5 裝填架完全ニ射擊位置ニ復歸セサレハ閉鎖シ得ス

第四節 抽筒装置

第十八 鎖栓開放ノ終期ニ於テ鎖栓ノ踵部ハ抽筒子ノ左端ヲ後方ニ移
動セシメテ抽筒スルト共ニ閉鎖止ハばねノ力ニヨリテ後方ニ旋回シ
鎖栓ノ斜面ニ接觸シテ開放位置ヲ保ツ

第十九 此ノ際鎖栓ハ緩衝機ノばねノ力ニヨリ常ニ閉鎖セントスル作
用ヲ生シ閉鎖止ニ接觸シアルモノトス

第三章 搖架

第二十 搖架ハ被套式ニシテ後端近クニ砲耳ヲ有シ所謂低砲耳式ナリ
平衡機ニヨリ後端ヲ引カル
中央ハ砲身挿入孔ニシテ砲身後復坐ノ準ヒヲナシ上方ニ復坐機、下
方ニ駐退機ヲ結合シ其ノ他自動開放装置及裝填架ヲ附ス

第二十一 裝填架ハ彈藥筒ヲ大射角ニ於テモ容易ニ裝填シ得ル爲ニ裝
發シアルモノニシテ裝填要領左ノ如シ

1 閉鎖機ヲ開キ彈藥筒ヲ裝填架上ニノセ駐板ヲ握把ト共ニ握リ裝填
架ヲ砲中心線方向ニ押シ倒シ駐板ヲ放セハ駐板ニ連結セル駐栓ハ
搖架後端左側上部ノ孔ニ挿入シ裝填架ハ裝填位置ニ駐止ス

2. 曳索ノ握把ヲ引ク然ルトキハ曳索先端ノ撞彈筒ハ彈藥筒ヲ前進セ
シメ藥室內ニ入ラシム

3. 駐板ヲ握把ト共ニ握リ裝環架ヲ射擊位置ニ引キ起シ撞彈筒ヲ後方
ニ引キ戻ス

第四章 駐退機 (附圖第十六)

第二十二 駐退機ハ砲身ノ下方ニ在リ水壓式ニシテ前方ニ液備液室ヲ
有シ後方ハ活塞桿ヲ以テ砲身連結臂ニ結合ス

後坐長ハ二八一三二吋ニシテ駐退液量ハ液備液ヲ合セテ約八・五立
ナリ

第二十三 駐退機ノ機能

砲身ハ活塞桿ヲ伴ヒテ後坐ス從ツテ活塞桿後方ノ液ハ活塞頭ニ壓
ラレテ活塞ト節制桿トノ間ニ流出シ後坐ヲ節制ス

此ノ際節制桿頭部ノ復坐節制桿ハ液壓ニ依リテ後方ニ壓セラレ液ノ
一部ハ活塞桿内ノ節制桿後方ヲ充ス

砲身復坐ヲ始ムルヤ復坐節制桿ハ前方ニ壓セラレテ節制桿ト桿トノ

間ハ閉塞セラル從ツテ液ハ活塞桿内壁ニ刻セル漏孔ヨリ流レテ復坐
ヲ節制シ尙一部ノ液ハ節制桿後端ニ噴著セル「ナット」中ノ漏孔ヲ
通りテ節制桿内ニ入り節制桿先端ニアル復坐調節桿ヲ通り活塞前方
ニ至ル

復坐調節桿ハ復坐速度ヲ調節スルモノトス

駐退液不足スルヤ液備液室ヨリ自然ニ流入ス

第五章 復坐機

第二十四 復坐機ハ砲身ノ上方ニ在リ無液空氣式ニシテ油壓式「パツ
キング」ニ依リ空氣ノ滲洩ヲ防止スル装置ヲ特長トス

復坐空氣壓ハ三十七氣壓ヲ標準トス

第二十五 復坐機室ハ液室ニ結合シ其ノ内ニ復坐活塞桿ヲ裝入ス

前方ハ液備液室ニヨリ復坐活塞桿及二箇ノ接續桿ヲ接續ス、二箇ノ接
續桿後端ハ「ナット」ニヨリ砲尾上面ニ結合セラル

液備液左側ニ壓力計及油壓油液量計ヲ有シ夫々導管ニヨリ復坐機ニ接
續ス

第二十六 復坐機ノ機能

砲身ハ連結桿ヲ伴ヒテ後坐ス
復坐活線桿ハ前方ニ於テ緩衝環ニヨリ連結桿ニ接續シアルヲ以テ砲
身ノ後退ニ伴ヒ後退シ復坐管内ニ進入ス從ツテ復坐管内ノ空氣ハ壓
縮セラル、砲身ノ後退止ムヤ壓縮セラレタル空氣壓ヲ以テ砲身ヲ復
坐セシム

第六章 砲 架

第二十七 砲架ハ側板式ニシテ巨礎上ヲ旋回シ且水平規正ヲナシ得ル
如キ装置ヲ有ス

後方上部ニ砲耳室ヲ右側ニ起伏式ノ踏板及方向照準機(方向受信機
共)左側ニ高低照準機(高低受信機共)及信管測合機ヲ裝著ス
照準手坐ハ各自ノ体格ニ應シ適宜ニ規正シ得

第二十八 平衡機ハばね式ニシテ左右二本ヨリ成リ平衡機室内部ニば
ねヲ收容シ後方ニ鏈ヲ出シ其ノ鏈ヲ以テ滑架ノ後端ヲ引張り俯仰ヲ
輕快ナラシム

平衡機室上方ニ後車輪懸吊架ヲ裝著シ放列姿勢ノ場合後車輪ヲ懸吊
スルニ供ス

第七章 高低照準機 (附圖第十八)

第二十九 高低照準機ハ砲架左側ニ裝著セラレ高低「ハンドル」ノ回
轉ニヨリ連結桿及齒車、永轉螺ヲ適シ滑架下面ノ齒弧ヲ介シテ砲身
ヲ俯仰セシム

射撃ノ衝力ニ應スルタメノ摩擦板ヲ有ス

左側砲耳室ニ射角板ヲ有シ、 5° ノ目盛ヲ刻シアリ

第三十 高低受信機ハ高低「ハンドル」上方ニ裝著シアリ

圓形目盛板ノ最小目盛ハ $1^{\circ}10'$ ニシテ一周ハ 10° ナリ、半圓形目盛板ノ

最小目盛ハ $10'$ ニシテ圓形目盛板ヲ一周セハ半圓形目盛ノ $10'$ 移動ス

高低受信機左側ノ修正轉輪ニヨリ 0° ヲ規正ス

高低「ハンドル」ノ回轉ニ伴ヒ本目盛ハ射角ニ應スル角度ヲ示スモ

ノトス、

第八章 方向照準機 (附圖第十九)

第三十一 方向照準機ハ砲架右側ニ裝着セラレ方向「ハンドル」ノ回
轉ニヨリ連結桿及齒車、水轉等ヲ通シ匡礎内面ノ大齒車ニ發シ砲
架以上ヲ旋回セシムルモノトス
運行時ノ砲架以上ノ方向移動ヲ阻止スルタメ方向駐栓ヲ有ス (附圖

第二十三)

第三十二 方向受信器ハ方向「ハンドル」上方ニ裝着シアリ
圓形目盛板ノ最小目盛ハ10ニシテ一周ハ10ナリ、半圓形目盛板ノ
最小目盛ハ10ニシテ圓形目盛板ヲ一周セハ半圓形目盛ノ10移動ス
方向受信器右側ノ修正轉輪ニヨリ0ヲ規正ス
方向「ハンドル」ノ回轉ニ伴ヒ本目盛ハ方向ニ應スル目盛ヲ示スモノトス
方向「ハンドル」一回轉セハ方向2移動ス

第九章 信管測合機 (附圖第二十、二十一)

第三十三 砲架左側托板上ニ備付「ボルト」ヲ以テ裝着セラレアリ、
運行時ハ砲架ニ接シテ位置セシメ操作時ハ外方ニ移動シ各自取扱ニ容

易ナル方向ニ位置セシムルモノトス

第三十四 信管測合機ハ信管測合機構ト受信機構トニ大別ス

第三十五 圓形目盛ハ信管秒時ニシテ最小目盛ハ1.4秒ナリ
0秒1.30目盛ヲ刻シアリ、中央下部ノ規正轉輪ニヨリ0ヲ規正シ

分壹受信「ハンドル」ヲ以テ指針ヲ移動スルモノトス

第三十六 左方形ノ目盛ハ信管ノ種類及各信管ノ製造口ニヨル修正
裝置ニシテ左方ノ修正分壹轉輪ニヨリ修正スルモノトス

第三十七 右方形ノ目盛ハ修正結果標示目盛ニシテ信管ニ測合セラ
ルヘキ秒時ヲ標示スルモノナリ

第三十八 信管ヲ測合スルニハ彈丸挿入孔ニ彈藥ヲ裝入シ彈丸固定「ハ
ンドル」ヲ左手ニテ強ク引キタル儘右手ヲ以テ信管測合「ハンドル」

ヲ極限マテ引キ次ニ彈丸固定「ハンドル」ヲ舊位ニ復シタル後信管
測合「ハンドル」ヲ舊位ニ復ス

第三十九 信管測合セハ彈藥ヲ彈丸挿入孔ヨリ抜き出シ裝填架上ニノ

ヤル (附圖第二十二)

第四十 「注意」 信管ヲ測合スル場合左手ニテ踵ク彈丸固定「ハンド
ル」ヲ引キアルヲ要ス然ラサレハ測合用筒形空轉シテ確實ナル測合
シテシ待サルモノトス

第十章 匡 礎

第四十一 匡礎ハ中央ニ砲架以上ヲ積セ全周旋回及水平規正装置ヲ有
ス

周圍ニ蓋本ノ脚ヲ裝著シ前下方ニ車輪直軸ヲ接続シ得ル如キ装置ヲ
有ス

脚ハ起伏式ニシテ運行時ハ直角ニ起シ索ヲ以テ砲架ノ周圍ニ纏著シ
射撃時ハ水平ニ倒シ床液ヲ潑洒セシム

第十一章 運行緩急

第四十二 四輪式ニシテ匡礎ノ前後ニ空氣入ノ「ゴム」車輪ヲ裝著シ
緩衝装置ヲ有ス、尙四輪ニ連結セル制轉機ヲ有シ手動移動ノ場合ハ
制轉機「ハンドル」ニテ操作シ自動車運行ノ場合ハ自動車ヨリ制轉
機ニ接続シ操作シ得ル如キ装置ヲ有ス

前車輪ニハ轉向裝置ヲ附シテ同轉半徑ヲ小ナラシムル如クナシアリ
即チ制轉機「ハンドル」下方ノ轉向把ヲ「左方」ニセハ戰桿ハ車
輪ニ對シ逆動シ「右方」ニセハ直角ニ固定スルモノトス

第三編 或 級

第一章 分解結合

第一節 通 則

第四十三 分解結合ハ構造機能ヲ良ク理解シタル後本章ニ依リ除クニ
行ヒ難大ナル力ヲ加ヘサルモノトス

第四十四 分解セル部品ノ結合ハ特ニ示スモノノ外分解ト反對ノ順序
ニ行フモノトス而シテ部品毎ニ機能ヲ點檢スルヲ要ス

第四十五 照準具、信管測合機、陸退機、復坐機、平衡機ハ造兵廠ノ
外分解スヘラス

第二節 砲 身

第四十六 砲身ヲ架架ヨリ離脱スルニハ左ノ順序方法ニヨル
砲身ヲ水平ニス

2 復坐尺を繰り脱ス

3 復坐機及磁選機ト砲尾トノ結合ヲ解ク（復坐機連結棒「ナット」
二ヶ、活弁棒「ナット」一ヶヲ脱ス）

4 砲身ヲ後退セシメ滑架ヨリ脱ス

第四十七 砲身ヲ分解スルニハ左ノ順序方法ニヨル

1 砲尾ノ磁線二ヶヲ脱ス

2 砲尾棒ノ戻高シテ磁筒ヨリ脱ス

3 磁筒先端ノ防氷蓋ヲ脱ス

第三節 磁 鏡 機

第四十八 閉鎖機ヲ砲尾ヨリ脱スルニハ左ノ順序方法ニヨル

1 安全栓ヲ安全（下方）
(SAFE)ノ位置ニ復帰せしめ磁筒止脱器ヲ脱ス（下方）ノ位
置ニナス

2 緩衝機止ノ磁把ヲ下方ノ位置ニ還シ緩衝機止ヲ上方ニ砲尾ヨリ脱
ス

3 閉鎖機棒ノ透孔ヲ把子ト共ニ握リ閉鎖機棒ヲ開キ主軸ノ標線ヲ砲
尾体ノ標線ト一致セシメ主軸下端ノ割「ピン」及「ナット」ヲ脱
シテ主軸ヲ上方ニ脱ス

4 閉鎖機棒ヲ右方ニ脱ス

5 鎖栓ヲ右方ニ離脱ス此ノ際滑動板ヲ落ササル如ク注意スルコト

6 摺動板ヲ脱ス

7 抽筒子ヲ後方ニ次テ閉鎖板ヲ下方ニ脱ス

8 止めじ及磁軸ヲ脱シ次テ上下ノ閉鎖止ヲ脱ス

第四十九 鎖栓ヲ分解スルニハ左ノ順序方法ニヨル

1 安全栓ヲ (SAFE) (安全)ノ位置（下方）トシ磁鏡機ノ磁子ヲ起シ磁鏡
機ヲ約四十五度（指標カ一致スルマテ）左ニ廻シテ結合ヲ解キ後
方ニ脱ス

2 鎖栓ノ環針孔ヲ下向キトシ逆鉤脱子ヲ押シツツ同磁鏡ヲ抜き逆鉤
脱子及同ばねヲ脱ス

3 安全栓ヲ發火ノ位置トシ逆鉤脱子乙上端ノ割「ピン」及「ナット」

脱シ、環蓋脱子甲ヲ左方ニ同乙ヲ右方ニ鉤桿ヲ後方ニ脱ス
各緩衝機ノ止めト脱シテ緩衝機ヲ後方ニ抜き出ス
5. 安全栓軸止ノ割「ピン」ヲ脱シテ軸止ヲ上方ニ安全栓ヲ後方ニ脱ス

第五十 環蓋機ヲ分解スルニハ左ノ順序方法ニ依ル

1. 脱子ノ環蓋ヲ押シツツ「ピン」ヲ抜き環蓋、ばね、壓筒ヲ脱シ次ニ止軸ヲ抜き脱ス
 2. 逆鉤ノ先端ヲ壓シテ環蓋後ノ姿勢ニナシ逆鉤軸ノ止めト脱シテ軸ヲ抜き次ニ逆鉤ヲ脱ス
 3. ばね止ヲ押シツツ止板ヲ脱シばね及壓筒ヲ分離ス此ノ際ばね止ヲ飛ハササル如ク注意スルヲ要ス
 4. 環蓋ヲ左廻シテ環蓋、同ばね、環蓋ヲ脱ス
 5. 環蓋「ナット」ヲ左廻シ環蓋ト共ニ環蓋ヨリ脱ス
- 第五十一 環蓋機ノミヲ分解スルニハ閉鎖機ヲ閉鎖シ引鐵ヲ引キタル後安全栓ヲ安全ノ位置ニシ環蓋機ノ脱子ヲ起シ環蓋機ヲ約四十五度

(指標カ一致スルマテ) 左ニ廻シテ結合ヲ脱シ後方ニ脱シタル後第

五十條ノ順序方法ニヨルヘシ

第五十二 緩衝機ヲ分解スルニハ左ノ順序方法ニヨル

1. ばね室ヲ萬力等ヲ以テ保持シ蓋帽ヲ左廻シ螺脱ス
2. 坐板、緩衝ばね、ばね受、壓筒ばね、壓筒ヲ分離ス

第五十三 閉鎖機桿ヲ分解スルニハ左ノ順序方法ニヨル

1. 齒車ヲ取出ス
2. ばね筒ノ止めト脱シテばね筒ヲ左廻シテ脱シ閉鎖ばね、齒桿ヲ脱ス

第二章 放列布置及撤去

第五十四 放列布置ヲ行フニハ左ノ順序方法ニヨル

1. 砲車ヲ搬定ノ陣地ニ導キ牽引車ヨリ脱ス
2. 昇降機操作中ニ火砲ノ移動スルヲ防止スルタメ巨砲兩側ニ二ヶ宛裝着シアル枕ヲ車軸及巨砲ノ孔ニ挿入シテ輕ク打ち込ム(四ヶ所)
3. 各脚ノ締着ヲ解キ若干箇ヲ百八十度旋回シタル後砲ノ中心ヨリ夫

・放線状ニ向ケ水平ニ倒シ駐輪ヲ挿入シテ匡礎ト結合ス
線メ床板ねじヲ廻轉シテ床板ヲ脚ニ接觸セシメ置クコト

4 倒轉機ノ連結機一ケ、連結ワイヤニケテ離脱ス

5 昇降「ハンドル」ヲ廻シ昇降機ヲ上ケテ匡礎以上ノ荷重ヲ受けケシ

メ（匡礎駐輪カ抜ケ出ス迄僅カニ輕ク「ハンドル」ヲ廻ス）下端

ノ匡礎駐輪ヲ抜キ昇降「ハンドル」ヲ導ニ同轉シテ匡礎ヲ接地セ

シム

此ノ際因ケ所ノ昇降機カ等齊ニ降下スル如ク昇降「ハンドル」ヲ

同轉スルヲ要ス

6 總機ノ前部ヲ昇降機ノ下端ノ連結機ト匡礎トノ結合ヲ解ク

7 前車輪ノ駐輪ヲ抜キテ前車輪ヲ倒倒ヨリ移動ス

8 機身托架ヲ機身ヨリ脱シテ前方ニ倒ス

9 昇降「ハンドル」ヲ同轉シテ後車輪ノ昇降機ヲ抜キ出シ其ノ上端

ヲ車輪懸吊架ニ接續シ再ヒ昇降「ハンドル」ヲ同轉シテ車輪ヲ上

端マテ吊上ケ車輪ト懸吊架トノ結合用駐輪ヲ挿入シテ固定ス

10 方向駐輪ヲ抽出シ左方ニ位置セシム

（方向駐輪先端ハ孔ヨリ抜ケ出シ方向移動自由トナル）

11 水平規正ヲナス

12 各脚端ノ床板ヲ接地セシム

13 各脚ニ駐輪ヲ打入ス

第五十五 水平規正ヲナスニハ左ノ順序方法ニヨル

1 水平規正螺及滑輪ハ九十度ヲ開シテ匡礎ノ周圍ニ四箇アリ對稱ノ

二箇宛同時ニ操作スルモノトス

2 水平規正「ハンドル」ヲ水平規正螺及滑輪ニ裝入シテ「ハンドル」

上面ノ把手ヲA又ハBニ位置シ（前方ノ「ハンドル」共同一ノ符

號トス）水準器ノ氣泡ヲ中央ニ導ク如ク「ハンドル」ヲ操作ス

操作中「ハンドル」固クナリタル場合ハ無理ヲスルコトナク一ケ

所宛別々ニ操作シ旋回ノ自由トナリタル後再ヒ同時ニ操作スルモ

ノトス

第五十六 砲架右側ノ踏板ノ駐輪ヲ抜キ側方ニ倒ス

第五十七 腰封及足踏ハ各自ノ体格ニ應スル如ク適宜規正スルモノトス

第五十八 前車輪ノ緩締ハ運行時ハ轉向抵抗ヲ「左方」ニナシ遊動シ得ル如クシ弛緩ヨリ離脱シタル場合ハ右方ニナシ調整スルヲ可トス

第五十九 放列ヲ撤去スルニハ緩ネ右ト反對ノ順序方法ニヨルモ注意スヘキ件ヲ左ニ記述ス

六脚ソ目角ニ起シ固ク確實ニ索ヲ以テ縛著シ次ニ床板おヒテ廻シテ床板ソ内側ニ入レ運行時ノ最大外側幅ヲ少ニスルコト

第三章 射撃上ノ注意

第六十 射撃上ノ注意ハ本砲ニ特有ノ事項ノミヲ記述スルヲ以テ一般的事項ハ本邦高射砲取扱法ニヨルヘシ

第六十一 空退液ハ常ニ液室ノ液面ヨリ液面カ見エル程度ニテシテハヘシ

液室ハ搖架右側前方ニナリ注油スルニハ砲身ヲ水平ニナシ上面ノ二箇ノ塞膠ヲ取脱シ大ナル孔ヨリ注油シ小ナル孔ヨリ排氣シ注液

スルモノトス

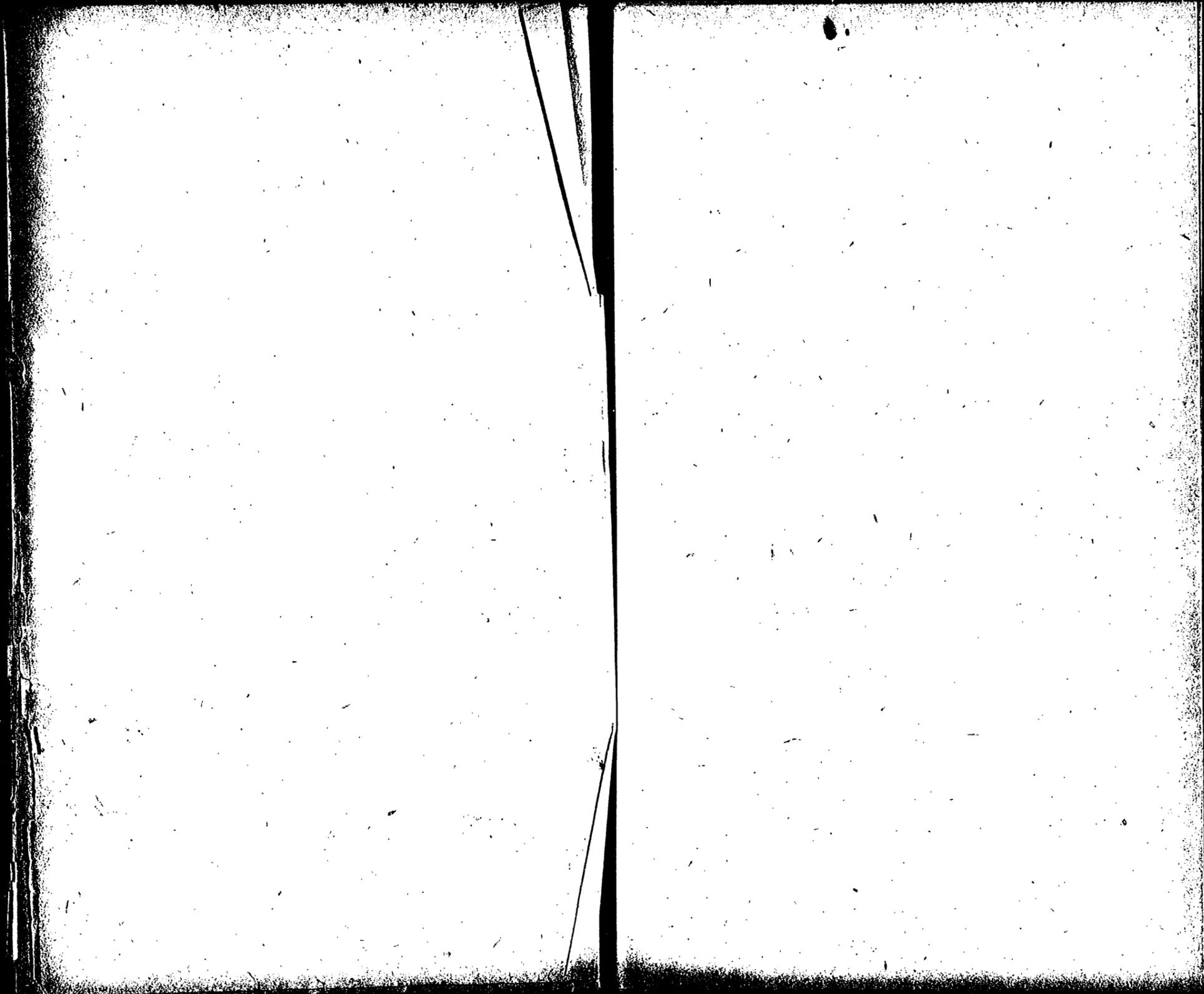
第六十二 空退液内ノ空氣ヲ排除スルニハ壓力計下方ニ在ル排氣孔ヨリ排氣スルモノトス

第六十三 空氣壓ヲ點檢スルニハ壓力計蓋ヲ脱シ蓋縁ニテ充分締メタル後蓋縁右方ノ空氣塞ヲ開キテ壓力計ノ示ス氣壓ヲ讀ムモノトス

三十七氣壓ヲ標準トス
目盛ノ外側ハ氣壓、内側ハボンドノ時ヲ示ス

第六十四 壓力計前方ノ油盪標示指針（附圖第十七）ハ復坐機「バツキング」中ノ液壓ヲ示スモノニシテ常ニ隣々中央ニアラシメルモノトス

液盪減少セハ注油孔ニテ蓋縁ヲ脱シ注油「ポンプ」ヲ接シタル後蓋縁ヲ閉塞スルヲ以テ注油スルモノトス次ニ液壓計ヲ閉塞ス



附 圖 第 一

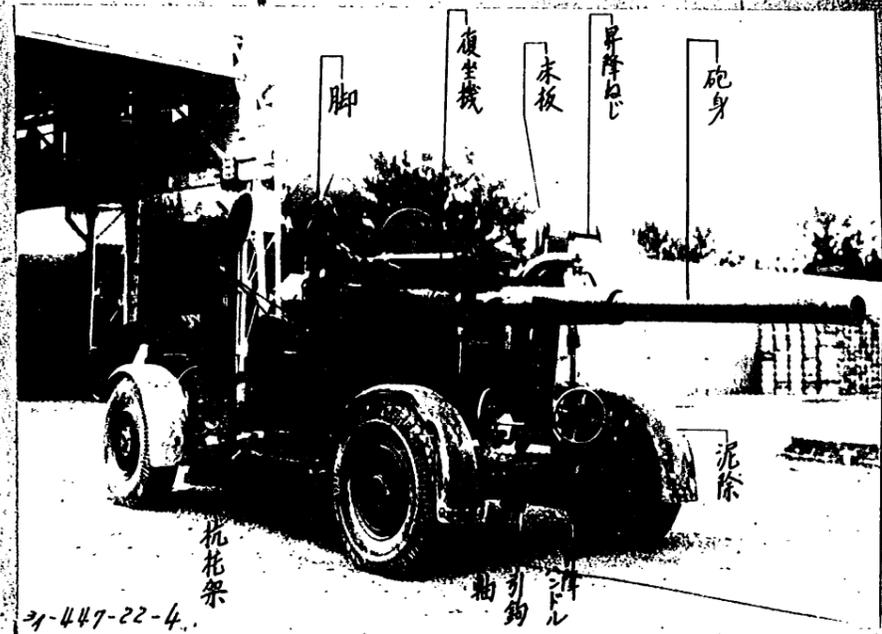
運 行 姿 勢



裏
面
白
紙

附 圖 第 二

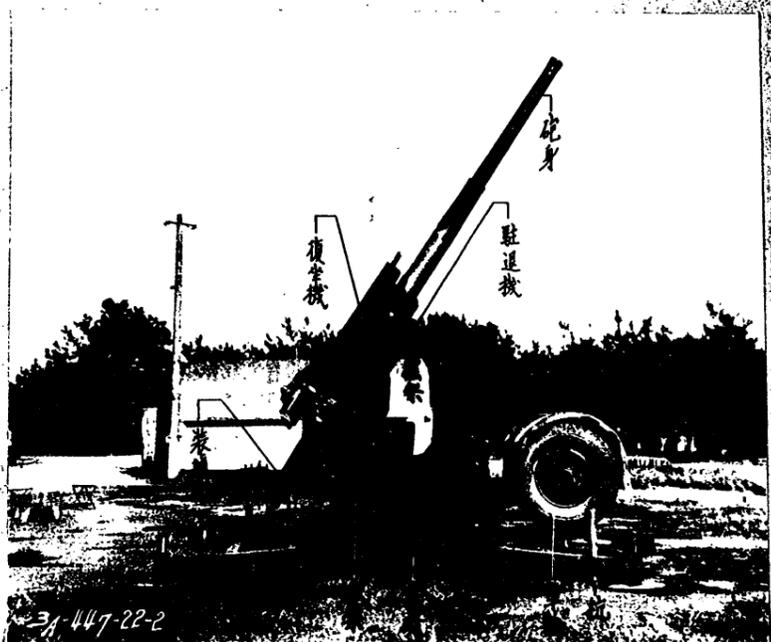
運 行 變 勞



裏
面
白
紙

第三卷

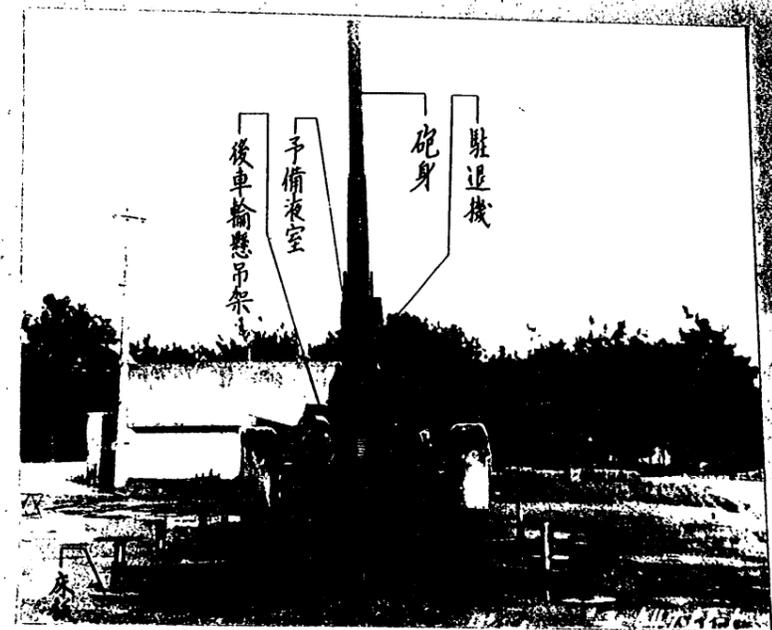
第三卷



裏面白紙

第四圖附

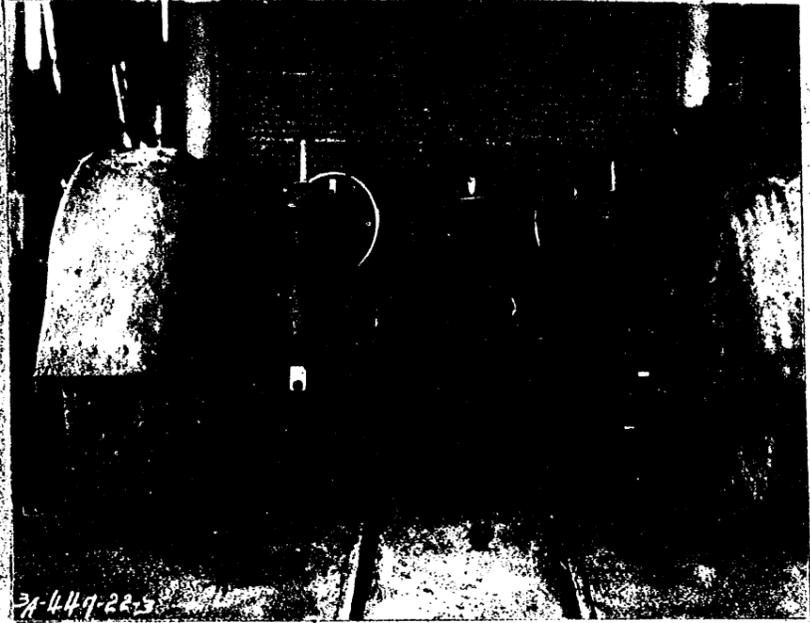
築造工程



裏面白紙

附 圖 第 六

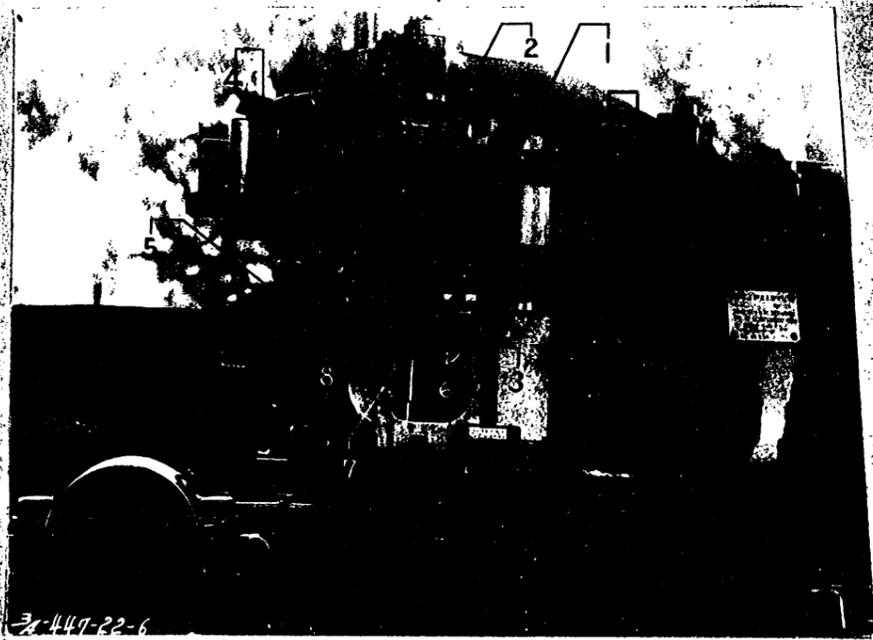
前 車



裏
面
白
紙

附 圖 第 八

開 關 機 組 立 (右 側 面)



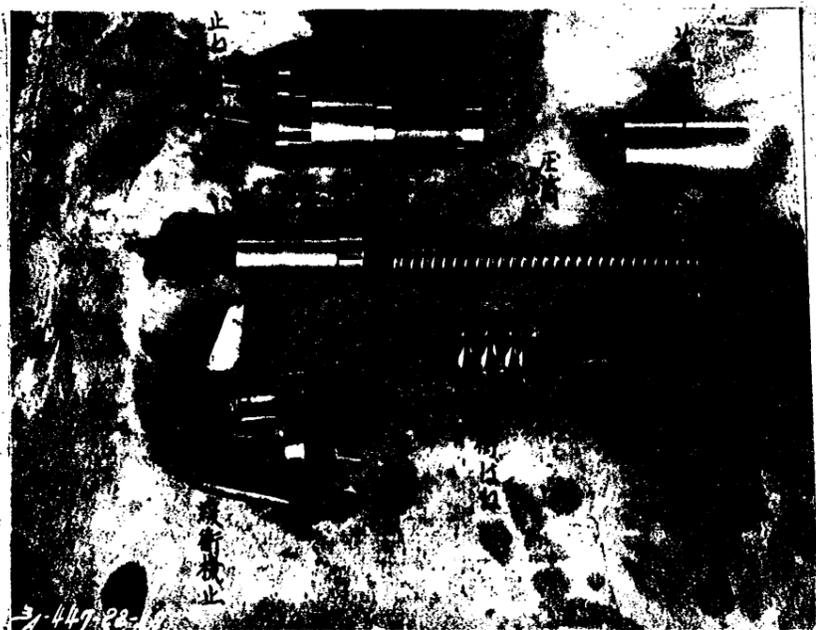
3-447-22-6

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|-----|
| 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 番 號 |
| 引 | 押 | 安 | 緩 | 標 | 把 | 緩 | 開 | 主 | 名 |
| | | 全 | 衝 | 標 | | 衝 | 閉 | | |
| | | 栓 | 機 | 標 | 子 | 機 | 鎖 | 軸 | |
| 鐵 | 栓 | 栓 | 機 | 把 | | 止 | 桿 | 箱 | |

裏 面 白 紙

第九圖

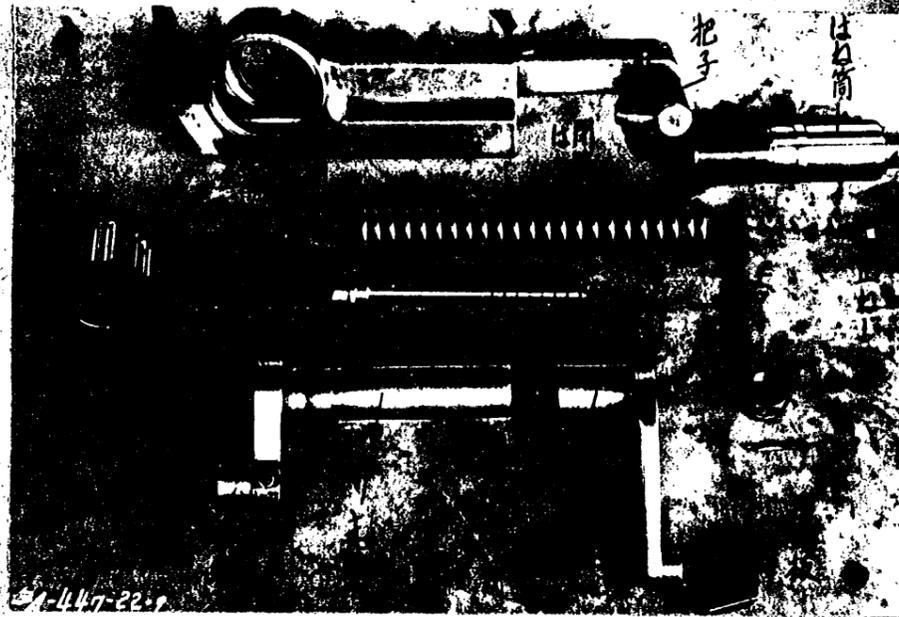
品部機鏡隨
(機符鏡)



裏面白紙

附圖第十

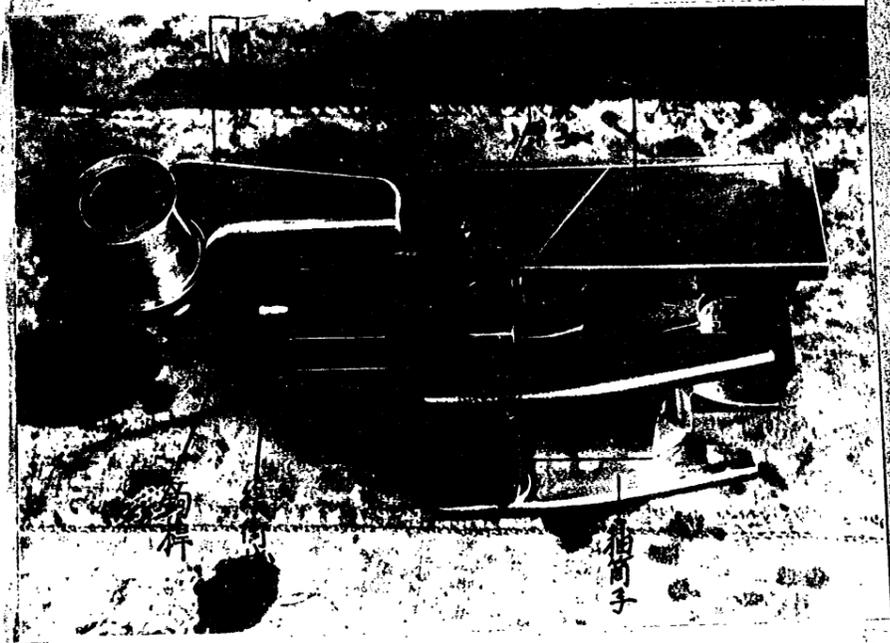
閉鎖機部圖
(開閉鎖主軸)



裏面白紙

附 圖 第 十 一

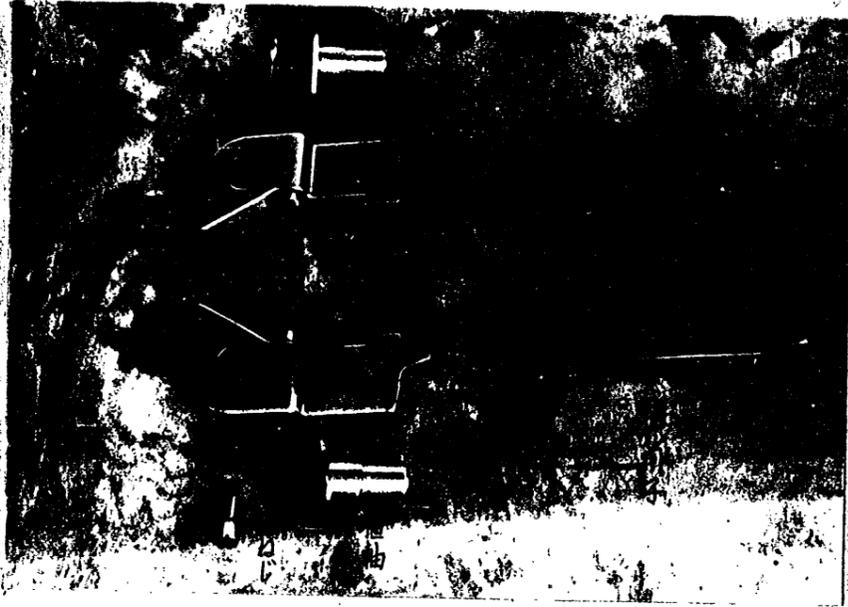
開 鎖 機 部 品
(鎖 栓・開 閉 板・油 筒 子)



裏
面
白
紙

附 圖 第 十 二

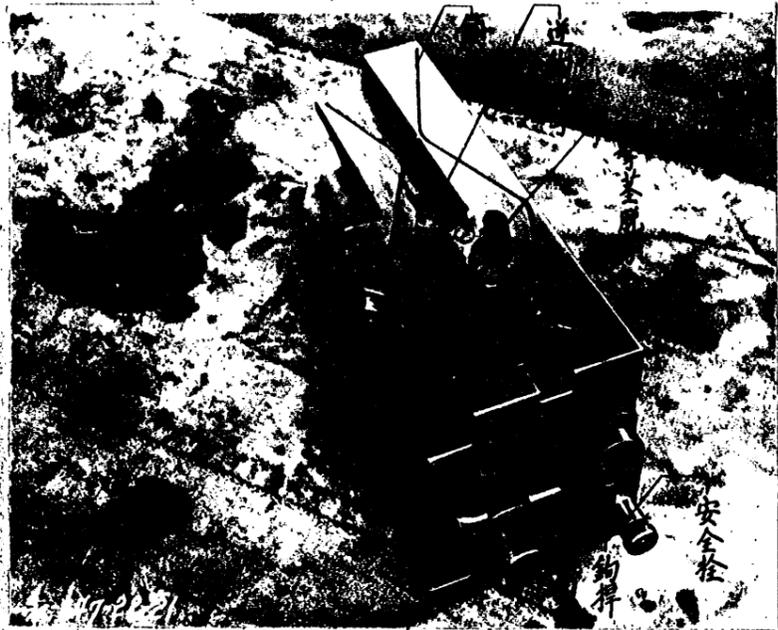
閉 鎖 機 部 品
(油 筒 子)



裏
面
白
紙

附圖第十三

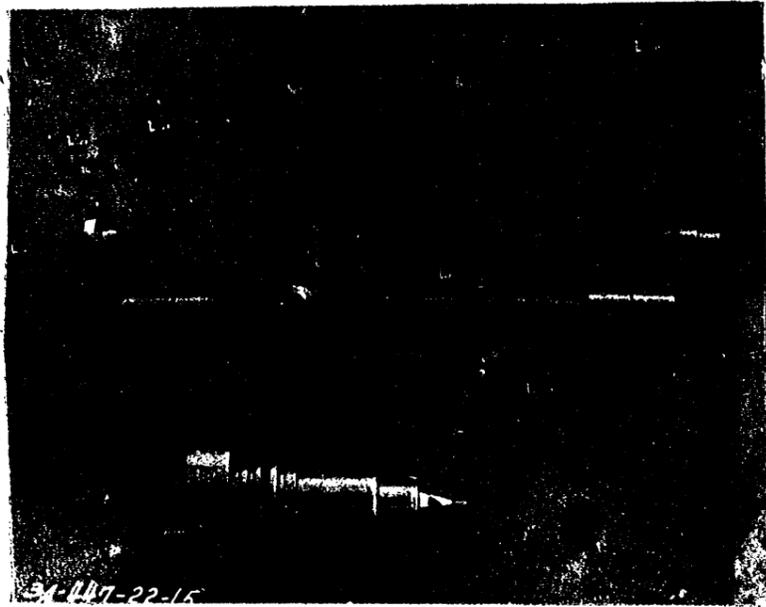
閉鎖機部品
(鎖港)



裏面白紙

附 圖 第 十 四

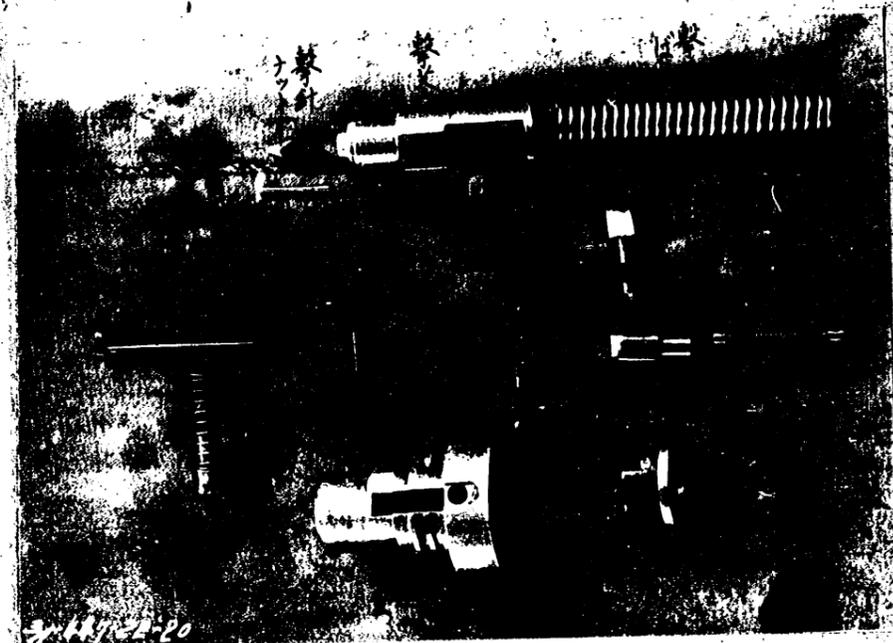
閉 鎖 機 部 品
(鞆 發 機)



裏
面
白
紙

附圖第十五

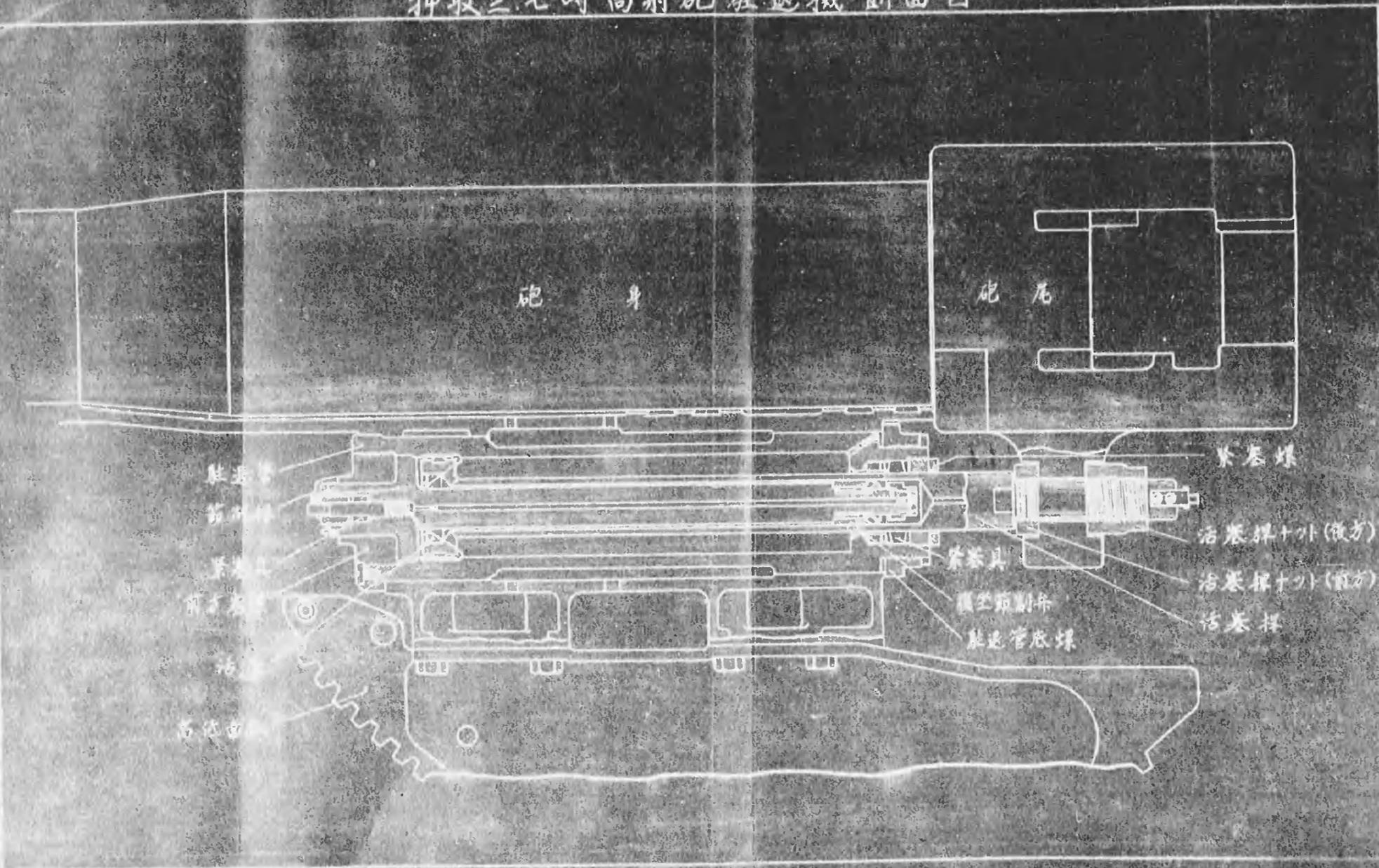
閉鎖機部品
(擊發機分解)



裏面白紙



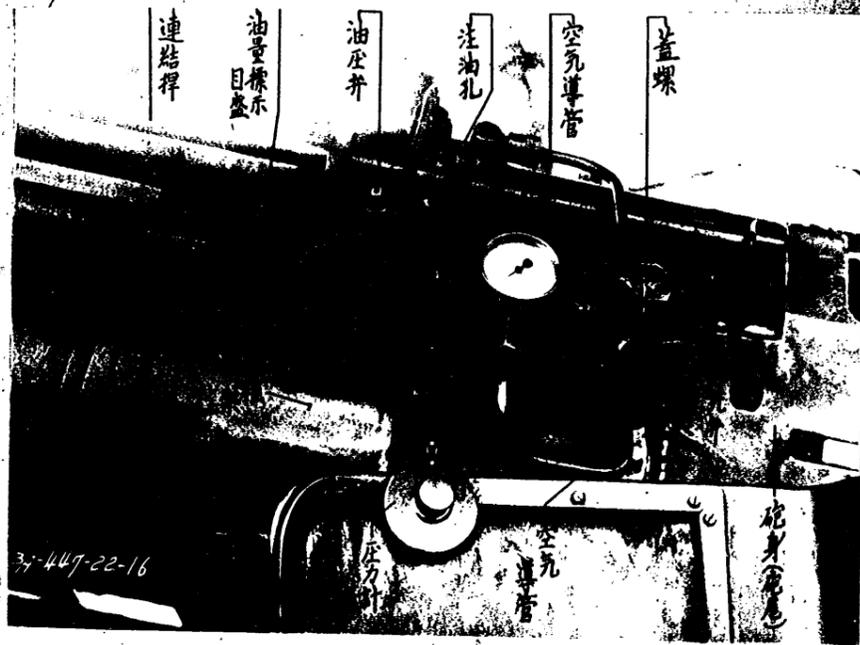
押收三七吋高射砲駐退機断面図



裏面白紙

附圖第十七

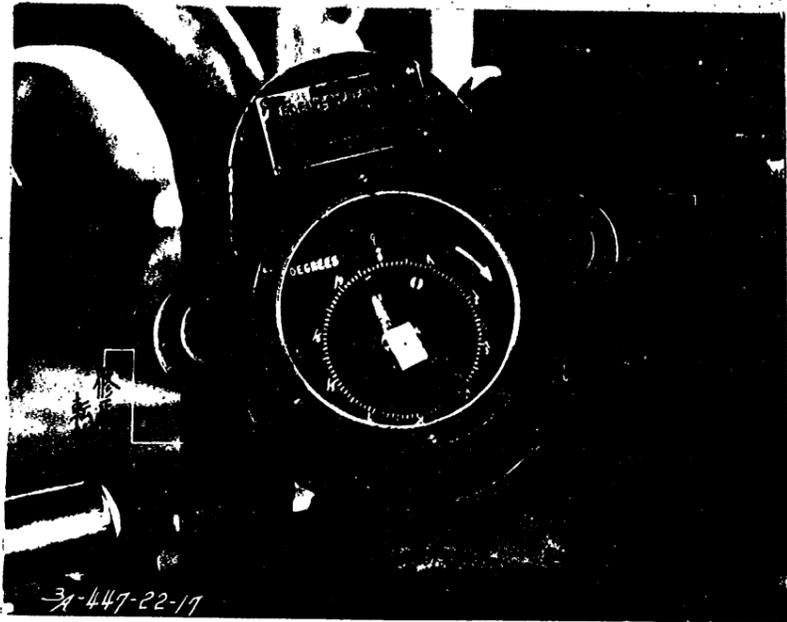
復坐機緊鑼油壓點檢裝置



裏面白紙

附圖第十八

高低照準機
高低受信器(高低角目盛)



裏面白紙

附圖第十九

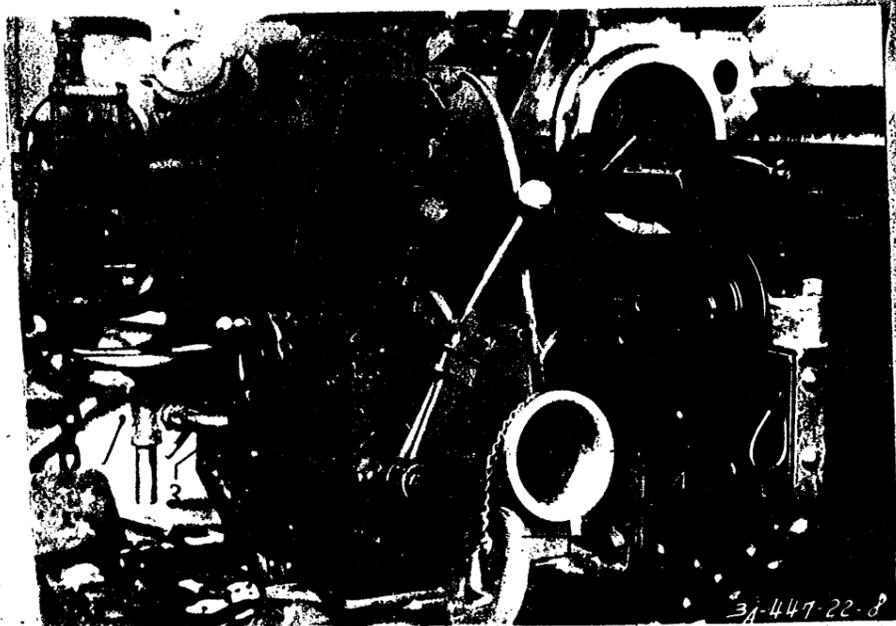
方向照準機
方向受信器(方向目盛)



裏
面
白
紙

附 圖 第 二 十

信 管 測 合 機

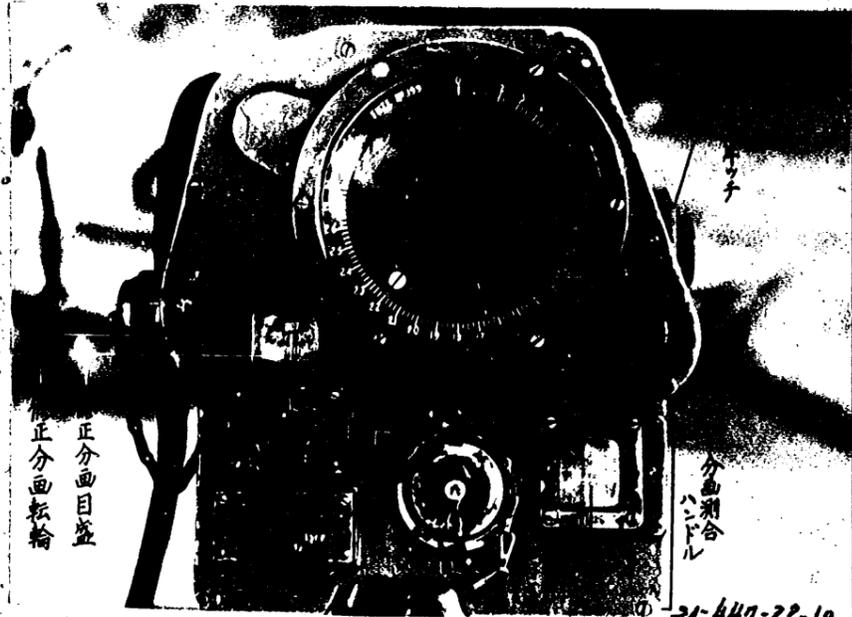


| 番 號 | 名 稱 |
|-----|----------|
| 1 | 彈丸固定ハンドル |
| 2 | 信管測合ハンドル |
| 3 | 分釐受信ハンドル |
| 4 | 彈丸裝入孔 |
| 5 | 蓋 |
| 6 | 射角板 |
| 7 | 發填架駐板 |
| 8 | 發填架運把 |

裏 面 白 紙

附圖第二十一

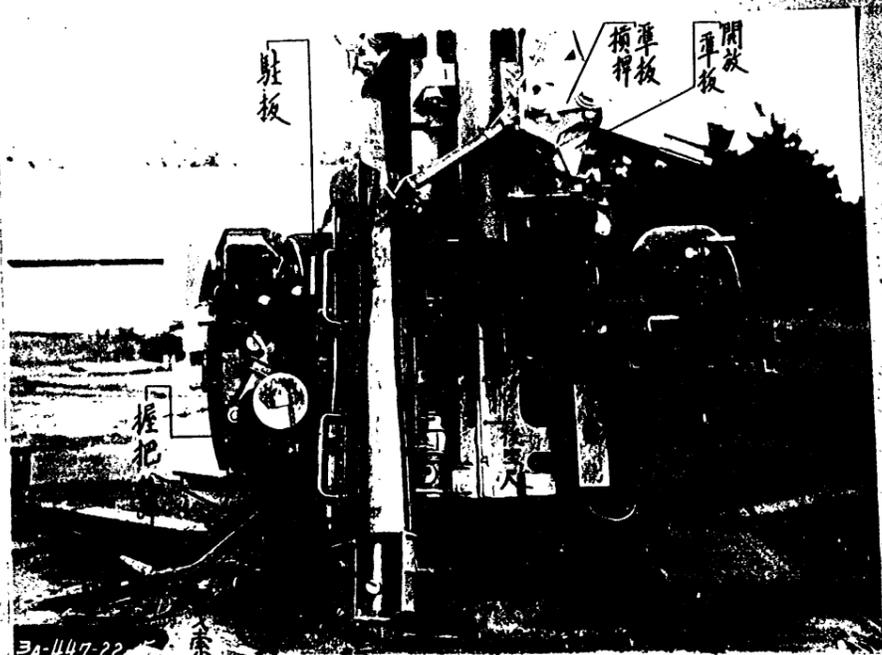
信管測合機目盛



裏面白紙

附圖第二十二

領要堰發丸張



裏面白紙

附圖第二十三

砲架
(方向駐栓、水準器)



裏面白紙

